戦争法案廃案を訴えたパレード＝1日、新潟市東区

戦争への道止める

著名人呼びかけパレード

新潟市東区

新潟市東区で1日、医師、弁護士、寺住職、自治会長など著名な27氏が呼びかけた戦争法案反対のパレードが行われ、炎天下70人が参加しました。主催は7月に結成された「ストップ！戦争法案」東区の会です。

出発集会で、呼びかけ人の足立定夫弁護士（元県弁護士会長）が「安倍内閣は国民大多数の反対と不安の中で、戦争法案を強行しようとしている。これまで戦争をする国にならなかったのは、憲法と国民多数の声が盾になっていたからだ。各地でこれまでにない層が参加し、運動が広がっている。廃案になるまで今こそ声を広げよう」と訴えました。

日本共産党の渋谷明治県議は「私は戦争で兄やおじを亡くしている。当時はコメを供出させられ、子どもたちは食べるものがなく、つらい生活だった。戦争になれば一番犠牲になるのは子どもたちだ。政府・与党を追い込み、立ち上がれなくなるまで追い込むために頑張ろう」と呼びかけました。

若いママたちでスタンディング宣伝した三谷直美さんは「居ても立ってもいられない気持ちでここに来た。私には4歳の息子がいます。戦場で殺し殺されることになる戦争法案に絶対反対です。ママたちは本気で立ち上がっています。声を大きくして廃案にしましょう」と訴えました。

結成集会に続いてパレードに参加した佐藤洋子さん（72）は「孫たちのために絶対反対です。気持ちを強く持って活動していきたい」と話しました。

別の女性（83）は「いとこも親せきでも何人も戦死している。友達が一生懸命頑張っているので参加した。戦争法案を廃案にしたい」と語りました。

パレードには、日本共産党の五十嵐完二、飯塚孝子両市議も参加しました。

元裁判官も「廃案に」

愛知・一宮で集会

愛知県一宮市で2日「青年を海外の戦場に送らない8・2一宮集会」が開かれました。猛暑のなか、稲荷公園に300人近くの人が集まりました。一宮在住の弁護士や医師、僧侶、市議などの呼びかけでつくられた実行委員会主催。

呼びかけ人を代表して歯科医師の浅野恭正氏（県保険医協会理事）は「イラク派兵差し止め訴訟で違憲判決が出され確定した。違憲な海外派兵は許せない。安倍独裁政治を許さず、戦争法案を廃案に追い込もう」と訴えました。

リレートークで元裁判官の丹羽日出夫氏は「立憲主義を破壊する戦争法案は廃案しかない」、正瑞寺住職の小笠原恵正氏は「仏教会が戦争に協力した反省にたち平和運動している。戦争への道は許さない」、看護師の服部洋子氏は「動員された従軍看護婦1500人以上が亡くなった。二度と白衣を汚したくない」と強調しました。

集会で参加者は「NO戦争法案」と書いたボードを高く掲げ、「思想、信条、立場の違いを超えて違憲法案を阻止するため声を上げ共に立ち上がろう」の集会宣言を採択しました。

集会後、参加者は「戦争法は許さない」「憲法守れ」と書いた横断幕やプラカードを持ち市内をパレードしました。「アベは辞めろ」と声をあげていた相原昭子さん（62）は「メーデーに参加したことはありますが政治的なテーマの集会は初めて。国会中継やニュースを見ていて安倍首相らの無責任な答弁に怒りがこみ上げてきます。友人に誘われてきました。来月に開く集会にも来ます」と話しました。

日本共産党の尾関宗夫、彦坂和子の両市議が参加しました。

「NO戦争法案」のボードを掲げアピールする参加者＝2日、愛知県一宮市

8/4 赤旗